

県営住宅の大量供給



県営河原町団地(川崎市幸区)
昭和49(1974)年完成
管理戸数1,300戸

市営住宅と一体の大規模団地(建設中を含む手前側の6棟が県営住宅)

大規模団地の建設

県営住宅は、戦後の住宅不足の解消を目的に建設が始まり、昭和40年代には高度経済成長による、都市への人口流入の需要の受け皿として、大量に供給する必要が生じました。

県は、昭和41(1966)年度よりプレハブ工法も採用しながら、県営住宅の建設を進め、昭和44(1969)年度からは高層の住宅も建設を開始しました。

県営住宅の管理戸数は、昭和40年代初めの約1万2千戸から、昭和40年代後半では約3万戸と大きく増加しました。



県営笹山団地(横浜市保土ヶ谷区)
昭和44(1969)年完成
管理戸数1,478戸



かながわ「昭和100年」

つながる心、ともに未来へ